

部局における教育・研究・診療・産学連携・社会貢献・国際化における特筆すべき取組と成果

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

（１）教育活動の国際化を推進する目的で、平成 23 年度研究科長裁量経費による共同研究プロジェクトとして、北京大学外国語学院と共同で「国際的な視野に立った日本語・日本研究共同教育プログラム」を平成 24 年 3 月に実施した。本プロジェクトは北京大学との国際共同教育プログラムの構築を目指し、共同ワークショップの実施で相互に学生と教員の交流事業を行うことを目的として、平成 22 年度に引き続いて行ったものである。平成 23 年度は本研究科から教員 2 名、学生 3 名が参加し、北京大学において共同ワークショップを開催し、学术交流を行った。

（２）国内外の学会発表や学術誌への論文投稿に必要な外国語（外国人留学生にとっての外国語である日本語を含む）の運用能力を高めるため、平成 18 年より演習形式の授業科目「研究のための英語スキル」及び「研究のための日本語スキル」を共通科目として開講している。また、本研究科の学位授与促進プログラムに基づく各種発表会において、各学生の発表に対し詳細な助言指導を行うためコメンテーター教員を配置している。これらと各講座の演習授業を有機的に関連させることによって各学生の研究発表・論文作成能力の向上に鋭意取り組んでいる。平成 23 年度の学会発表と学術誌への論文掲載は、後期課程学生の学会発表 29 件、論文掲載 21 件、前期課程学生の学会発表 4 件、論文掲載 3 件であった。

(2) 特筆すべき研究・診療・産学連携活動の取組と成果

本研究科では人文・社会科学、自然科学及び言語科学の諸分野において伝統的な概念や方法論の枠組みを超えた総合的・学際的な研究を展開しているが、特に附属言語脳認知総合科学研究センターは、本研究科の言語科学分野の研究者が先端的な研究を推進している。研究成果として、センターに所属する小野尚之教授は、Two modes of argument selection in nominals と題する論文をスタンフォード大学出版局 (CSLI Publications) より刊行した。また、同じく上原聡教授は The socio-cultural motivation of referent honorifics in Korean and Japanese と題する論文をオランダの出版社 (John Benjamins) から出版した。

ヨーロッパ文化論講座の寺本成彦教授は、『ロートレアモンと文化的アイデンティティー - イジドル・デュカスにおける文化的二重性と二言語併用』を邦訳し出版した。本書は従来からのロートレアモン研究に新たな視野を切り拓くものとして注目されている。

また、国際環境システム論講座の劉庭秀准教授は、資源循環の観点から震災廃棄物の処理についての研究を継続しており、アジア自動車環境フォーラム（マレーシア）「被災車両の適正処理と資源化」（2011 年 11 月）、韓国資源リサイクリング学会（ソウル市）「被災廃棄物の発生状況と処理の課題」（2011 年 12 月）などの国際学会で講演、日本マクロエンジニアリング学会第 27 回研究発表会（東京大学）では「震災廃棄物の適正処理と復興について」（2012 年 2 月）で優秀プレゼンテーション賞を受賞した。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

平成 23 年 12 月にタイのバンコクを中心に発生した大洪水によって、本研究科と研究・教育上の交流のあるチュロンコーン大学およびタマサート大学でも教育活動に支障を来すほどの被害があった。それを受けて、本研究科では両大学に支援を行うことをいち早く決定し、両校から大学院生を本研究科に特別研修生制度を利用して受入れ、研究指導を行った。チュロンコーン大学からは大学院学生 2 名を平成 24 年 4 月から 1 ヶ月間、タマサート大学から大学院学生 2 名を 4 月から 2 ヶ月半受入れた。なお、これらの学生については研究科として渡航費用の支援を行った。

言語脳認知総合科学研究センターは社会貢献・国際化を促進する活動として、平成 24 年 3 月に、公開フォーラムとして「言語と（間）主観性研究フォーラム in 仙台」を開催した。

例年国際文化基礎講座として行っている公開講座を平成 23 年 11 月に開催した。今回のテーマは「災害を生きるーその文化的諸相」と題して、石幡直樹教授、柳瀬明彦准教授、劉庭秀准教授の 3 名の教員が担当した。

平成 23 年度開催されたリベラルアーツサロンで本研究科の宮本正夫教授と北川誠一教授が講義を担当し研究成果の社会還元に貢献した。宮本教授は「認知科学としての仏教（第 12 回）、北川教授は「暗殺者の山城 イラン・ニザール派イスラム教徒の遺跡」（第 15 回）と題する講義を行った。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

なし